

透視像



多伎町（島根県出雲市）

碓井 静照

古代史を大きく塗り換える12万年前の石器時代前期の石器が島根県出雲市の砂原遺跡で発見された。日本最古という。

出雲から山陰線に乗って日本海沿線を眺めると、出雲路は黒い土にも歴史が感じられる。春は若竹の多い竹藪や、低い屋根の民家、田植えを終えたばかりの若緑の田んぼ、きらきら光る海岸壁に打ち上げる白波が、秋には水と空と雲のつくり出す或る微妙な、たゆたひ（田畑修一朗、浜田市出身の言葉引用）が冬に向う重さをしのばせている。宍道（しんじ）、五十猛（いそたけ）、仁摩（にま）、温泉津（ゆのつ）、山陰

線のどの駅の名も歴史を感じる懐かし響きだ。

日本海に面した古き良き町、島根県出雲市多伎町は「出雲国風土記（733年）」にも記載され、1280年もの歴史を刻んでいる。この田舎町で突如として大事件がおこった。古代史を大きく書き換える12万年前と断定される日本最古の石器時代前期の石器が発見されたというのだ。東京の古代史の学者が11万年と12万年前の明らかな断層の間に人工的に加工した石器、矢じりや石の刃を発見したと発表したためである。

多伎町多岐はもとも神話と伝説の町である。「出雲風土記」にみる「国とり物語」は天照大神、大国主命が登場する神代の世界だが、出雲大社の大主柱の基部、荒神谷遺跡、加茂岩倉遺跡と古代の埋蔵品が登場すると、神話の

世界が現代によみがえり古代史がますます面白くなる。

多伎神社は、出雲国風土記記載の「多吉社」にあたり、祭神・阿陀加夜祭志多伎吉比賣命（あだかやぬしたききひめのみこと）は、記紀に登場しない出雲の土地神である。明細帳では、音の類似から宗像三女神としているようだ。

こういつた古色蒼然とした古い神話の世界も、今回発見された12万年前の遺跡の前にはついこの間起こった近代史のようなものである。12万年前、国引き物語よりも遙か前の時代に、日本海に向こうの大陸と日本がつながっていたはずだ。この地は酸性の火山灰に覆われていたからナウマン像の化石などは存在するはずもないのだが、なか矢じり、石の刃物のほかに埋蔵物は発見されないものか。